

国際平和協力隊員の声



- ① 東ティモール選挙監視国際平和協力隊 選挙監視要員 (2007年5月～7月)
- ② ネパール選挙監視国際平和協力隊 選挙監視要員 (2008年3月～4月)

[現] 青山学院大学 国際政治経済学部 助教 田中 (坂部) 有佳子

派遣先では、政情が不安定で直前まで暴力が多発していたため、安全が確保され、人々の意思が投票を通じて代表者の選出に反映されるかが重要な課題でした。

赤子を抱く女性や高齢者も含め、人々が朝早くから投票所前に並びといった、日本ではみられないような状況を目の当たりにし、選挙への関心の高さがうかがえました。引き続き、世界各国において人々が平穏な暮らしを取り戻すためにも、非暴力による政治的競争が進められることを願っています。



- ① ネパール国際平和協力隊 UNMIN軍事監視部門 (2008年3月～2009年3月)
- ② スーダン国際平和協力隊 UNMIS国連事務総長特別代表室 (2011年4月～7月)

[現] (陸上自衛隊) 国際活動教育隊 共通教育科長 3等陸佐 日下 耕

ネパールやスーダンといった海外での勤務は、自分や日本のことを客観的に眺める機会にもつながり、日本人の所作や考え方、自衛隊勤務において身に付ける自衛官としての仕事の作法や軍事合理的な思考方法などが、世界で通用することを体感しました。

これらの貴重な経験を通じて私なりに体得させていただいた国際平和協力活動マインドは、現在の私の勤務に活かされています。



- ハイチ派遣国際救援隊 カウンセラー (2011年2月～8月)

[現] (陸上自衛隊) 西部方面総監部 防衛部付 (看護官) 1等陸尉 竹田 妙子

ハイチ到着から間もなく東日本大震災が起き、カウンセラーとして隊員のケアに必死でした。

また、娘の成長過程で重要な時期と派遣が重なることについては、複雑な心境でしたが、娘は「寂しい想いもしたけれど、看護官のママを誇りに思っている」と言ってくれました。

女性自衛官の活躍がより一層期待される中、私や家族の経験を踏まえ、後輩に柔軟なサポートや指導ができ、有意義な活躍ができる環境を醸成していきたいと考えます。



- グラン高原派遣輸送隊長 (2012年8月～2013年1月)

[現] 陸上幕僚監部 人事教育部 補任課 人事第2班長 1等陸佐 萱沼 文洋

その瞬間の隊員たちの目が忘れられない。私が政府のUNDOF撤収決定を告げると、隊員たちは大きく目を見開き、押し黙った。沈黙の後、一人が口を開いた。「いつ戻って来られるのでしょうか？」彼らは、誇り高きピースキーパーだったのである。派遣開始以来、我々に寄せられる信頼は、いつしか誇りとなっていた。

そうであればこそ、任務に携わった人々の想いが、隊員にあの言葉を言わしめたとも感じるのである。国際任務への使命感もまた、一朝では醸すことはできない。



- [現] シナイ半島国際平和協力隊 MFO司令部 連絡調整部副部長 (2021年5月～現在) 2等陸佐 林田 賢明

当初は、エジプトの文化や多国籍部隊ならではの苦勞もありましたが、相手を尊重し、お互いに理解することで、共通の目標に向かって任務を遂行できること、また、これまでの勤務で培った経験に基づき、状況に応じてバランスをとりながら業務を行うことで、十分に多国籍部隊において役割を果たせると実感しています。

今後も、関係者との信頼関係を維持しつつ、エジプト・イスラエルの平和のため、役割を果たしていきたいと思えます。



- [現] 南スーダン国際平和協力隊 UNMISS ミッション支援部 施設課 (2021年8月～現在) 3等陸佐 有蘭 光代

当地では、日本の部隊撤収後も、日本隊の仕事ぶりを評価し、懐かしみ、話しかけてくれる方は多く、その信頼貯金のお陰で現在円滑に仕事ができていると感じています。

私が携わる主要幹線道路の整備は、人、モノ、食料、医療へのアクセスを可能にするとともに、治安の改善や人的交流を促す平和構築プロセスそのものです。自らの仕事が「誰のどんな問題を解決するか」を考えることで、地図と心に残る仕事に繋がると信じています。この日の丸への信頼貯金、私も積み立てていきたいです。

表紙の写真 (上段) 左上: 2020年南スーダン 右上: 2005年グラン高原
左下及び右下: 2013年南スーダン / (下段) 2011年 スーダン
写真提供: 防衛省

編集: 内閣府国際平和協力本部事務局
発行日: 2022年(令和4年)2月

上記は概要版です。それぞれの全文をウェブサイトに掲載しております。



https://www.cao.go.jp/pko/pko_j/liaison/pko30_peacekeepers.html